

Town report

町農業委員会意見書提出 の農業振興のために

町農業委員会が12月16日、町に対して、地域農業振興のため現場からの要望や新規参入促進についての意見をまとめた「農地等利用最適化推進に関する意見書」を高橋町長に提出しました。提出後、担い手への支援や遊休農地対策、有害鳥獣対策などの農業が抱えるさまざまな課題について、町長と意見交換を行い、新規就農者への支援策や地域の担い手となる多様な人材の確保・育成策検討、遊休農地の発生防止などについての意見が出されました。今後も、町と町農業委員会が協力し、農業の発展や課題解決に向けて取り組んでいきます。



▲高橋町長に意見書を手渡す浅尾日出夫会長（中央）と佐藤徳雄会長職務代理者（右）



▲みんなで作ったバナナの飾りと、バナナを受け取り笑顔の園児たち

寒くてもバナナで元気 伊達果実農業協同組合がバナナ贈呈

伊達果実農業協同組合は11月21日、醸芳保育所をはじめ、醸芳幼稚園、各小中学校へバナナを贈呈しました。贈呈されたバナナには、「栄養価の高いバナナをおいしく食べて、元気に遊んでほしい」という思いが込められています。今回は新型コロナウイルス感染症の影響により、贈呈式は行われませんでした。後日、醸芳幼稚園では、バナナを受け取った園児たちの写真と園児たちが感謝の気持ちを込めて作ったバナナの飾りを、伊達果実農業協同組合の皆さんへ贈りました。

児 リトルオリーブ子ども基金が児童館へ絵本贈呈 児童館に届いたクリスマスプレゼント

子どもたちへの教育や福祉支援を行っている「リトルオリーブ子ども基金」のスタッフが12月17日、児童館を訪れ、子どもたちに絵本をプレゼントしました。来館されたスタッフ6人によるなぞなぞや、遊戯室に隠されたチョコレートなどのお菓子を探す宝探しゲーム、英語を交えた絵本の読み聞かせなどで、子どもたちは楽しいひと時を過ごしました。最後に、「ピロードのうさぎ」という絵本を一人一人へプレゼント。子どもたちは、ハンドベルの演奏で、感謝の気持ちを贈りました。



▲リトルオリーブ基金のスタッフと絵本のプレゼントをもらう子どもたち



▲佐藤徳雄会長（写真右）から表彰状を受け取る大槻さん（中央）

世 第35回国際平和ポスターコンテスト 世界の平和を絵に込めて

桑折ライオンズクラブによる第35回国際平和ポスターコンテストの最優秀賞授賞式が12月5日、伊達崎小学校で行われました。各地区の小学5、6年生と醸芳中学校の生徒から応募のあった68作品の中から7作品が入賞し、伊達崎小学校6年の大槻絢音さんの作品が最優秀賞に選ばれました。大槻さんは「男女の性差や人種に関係なく、勉強を教え合ったり、食べ物を分け合ったりしている様子を描いた。この絵のように、日常生活にたくさんの平和が訪れたらいいなと思う」と受賞の喜びとともに、平和への願いを語りました。



▶旧伊達郡役所を背に市巾着隊をする団員と消防車両

今年1年の火災予防に向けて 町消防団出初式

桑折町消防団の出初式が1月8日に行われ、津田次男団長以下、団員約200人が参加しました。女性消防隊が広報する防災活動車の先導で、団員と消防車両14台が市巾着隊のラッパ隊の高らかな演奏のもと、団員らは、今年一年の防火を願う、勇壮な歩みを披露しました。式典では、消防団綱領の斉唱や町長式辞、団長訓示、優良団員に対する桑折ライオンズクラブ表彰などが行われ、防火・防災へ取り組み気持ちを新たに、士気を高めました。

町へ防災用品・児童書寄贈 福島県北部地区郵便局長会

福島県北部地区郵便局長会から防災用品および児童書が寄贈され、その贈呈式が12月22日、役場で行われました。町が寄贈を受けたのは、災害時に役立つ折り畳みベッド18台と、会津若松市出身の日本郵便切手デザイナー中丸ひとみさんが絵を描いた「ぼすくまのおてがみりよこう」という絵本4冊です。高島貞邦会長は「地域貢献の一環として今後も寄附を続けていく。また、手紙文化継承のために、手紙をテーマとした絵本も子どもたちに届けていきたい」と話しました。



▶高島会長（写真右）から目録を受け取る高橋町長

町のICT教育充実のために 旭計器株式会社ふるさと納税寄附

4年連続となる旭計器株式会社からの企業版ふるさと納税の寄附贈呈式が1月16日、役場で行われました。企業版ふるさと納税とは、企業からの寄附を、地方創生のために取り組む事業に活用できる制度です。町では主に、①環境にやさしいまち推進プロジェクト、②健康で生き生きと暮らせるまち推進プロジェクト、③桑折っ子育成プロジェクトなどの重点事業に寄附を活用しています。同社からの寄附は、「桑折っ子育成プロジェクト」に活用され、学校で使用するタブレット端末などの整備に使われます。多賀新吾代表取締役社長は「ICTを活用した魅力ある教育を推進し、若者世代の定住人口増を目指してほしい」と期待を込めました。



▲「今後も桑折ならではの事業を展開してほしい」と高橋町長へ目録を贈呈する多賀代表取締役社長（写真右）